

〔剪花翁傳三月〕開花風車 花白藥淡赤に青みを含み、葩本に隈入也、開花四月上旬、方半陰、地一分  
隰土えらばず、肥淡小便、春彼岸前芽出しの時、一兩度そ、ぐべし、分株春芽出しまへよし、形デシ  
ンに似たり、

仙人草

〔廣益地錦抄五〕仙人草 蔓草にてかづらは冬もかれず、夏白花おほくさきてながめたへず、はな  
くわんかう甚よく遠くくんずる、遠近によらず、かきねにからませ尤うへべし、外科におふく用  
る、此葉をあやまりて口中に入れば齒うごく、甚敷は齒おつる、いたむ齒をぬきたきには、此莖を  
くわゆれば早くぬける、

〔草木育種後編下〕大蓼はこほれくさ 俗に仙人艸といふ、和蘭にてラツプ、スターンデ、ケレマチユスとい

ふ、葉及花を薬用とす、園中の雜木籬色に糾繆かきねしめてよし、又是が莖葉大毒なり、口中に入る、事  
なかれ、

唐松草

〔和漢三才圖會九十二〕唐松草からまろぐさ 俗稱正字未詳

按唐松草生山中、春生苗、苗凋更生莖葉、似人參而細小、面青綠背淡、三椹五葉、四月莖端開、白花無葩  
瓣、而匠人如刻成松葉、俗稱唐松也、花落蕊殘、其蕊青黃色亦似花、間希結莢、有稜如麥、顯而青色、

一種有小唐松、莖葉稍小而莖帶紫色、其花有白有紫、今人家移種甚可愛、

一種有雪黑草、高四五寸、葉花並似唐松草而白、紅、又有淺紫

白頭公

〔本草和名十一〕白頭公陶景注云、近根處有白茸、似人白頭、故以爲名、一名野丈人、一名胡主使者、一名奈何草、一名羌胡使者、  
出雜要決、和名於岐、奈久佐、一名奈加久佐、

〔倭名類聚抄二十〕白頭公 陶隱居本草注云、白頭公、和名於木奈久佐、近根處有白茸、似人白頭、故以

名之、

〔箋注倭名類聚抄十〕蘇注云、其葉似芍藥而大、抽一莖、莖頭一花紫色、似木堇、花實大者如雞子、白毛